

信州大学SSH講演会

研修報告

- 1 目的** 認知科学の講話から批判的思考を学び、自ら課題を発見し解決する基礎力を養成する。
- 2 日時** 令和5年6月8日(木) LHR(探究科は6・7限も)
- 3 対象** 第1部・・・1学年全員(173名) 第2部・・・1年探究科(69名)
- 4 講師** 信州大学人文学部教授 菊池 聡 教授(専攻:認知心理学)
- 5 内容** 第1部 1限 13:45～14:35 講演会『人はなぜ疑似科学を信じるか』
第2部 2限 14:45～ 講演会続き(より専門的なクリティカルシンキングの講義)
疑似科学に関するテスト

研修詳細：

毎年恒例となった「認知科学」に関する講義で、錯視やニセ科学の例などを用いて、私たちが陥りやすい思考のクセを体感しながら、クリティカルシンキングの重要性を学ぶことができるプログラムです。

探究科は、より科学的な講義として「2×2分割表を用いた考え方」を学びました。



講演に先駆けて生徒から回収したアンケート結果を紹介する菊池先生

例・・・『雨ごいすれば雨が降る』ことを証明するためには、どのような検証をしなければいけないか？

この場合、以下のような視点を持ち、すべての事象を検証する必要がある。

雨ごいをした結果雨が降った	雨ごいをしなかったが雨が降った
雨ごいをしたが雨が降らなかった	雨ごいをせず雨も降らなかった

私たちがよくやってしまうのは、『雨ごいしたら雨が降った』という事象のみを捉え、『雨ごい＝雨が降る』と誤った結論を導いてしまうことです。科学的検証を行うには、本校 SSH プログラムが掲げる「課題設定力＝課題解決のためにはどのようなデータが必要か認識する力」がきちんと身につけていることが重要です。

その能力が意識できているか確認する目的で、講演後にテストも実施しました。課題研究で取得すべきデータを認識することや、得たデータをどのように比較すればよいか、1年生のときから考えるクセをつけることが、課題研究の質の向上につながると嬉しいです。

「課題設定力」を測るテスト教材は、本校SSHサイトにも掲載しています！